



【写真】(上) 学校帰りに緑地公園を散歩をして自然を堪能します。(下) 学校の帰りのバスはコピスみよしに停車。迎えに行くのも楽です。

小さな町の魅力

の人も親身になって相談に乗ってくれて、住民一人ひとりを見てくれます」と話す真紀さん。春琉ちゃんが退院するとき、町の保健師が今後どのような生活をしていくのか、どのような制度を利用すればいいのかなどを一緒に考えてくれたことが嬉しかったといえます。「毎日、春琉の体調の変化に気を付けなければならぬ私たちに、これらのことを考えるサポートをしてくれたことは本当に助かりました」と真紀さんは思い返します。

同級生とのふれあい

春琉ちゃんが通っている学校は、所沢からおぞら特別支援学校。小学部から高等部まであり、障がいを抱える子どもたちの個別の特色に合ったプログラムで学習を進めることができます。春琉ちゃんは小学1年生から通い、現在は中学部の1年生です。もし、春琉ちゃんが地域の学校に通っていたら同級生になっていた子どもたち。その子ども

ながら語ります。



大好き！みよし野菜

【写真】みよし野菜が大好きな飯島家の皆さん。後列左から弘行さん(父)、弘汰くん(兄)、真紀さん(母)、前列左から春琉ちゃん、沙和ちゃん(妹)。

たちと春琉ちゃんが一緒に学校生活を楽しむ機会があります。それが「支援籍学習」です。障がいのある子どもが通う学校以外に独自の籍を置く制度で、春琉ちゃんは小学校2年生のときから、年に2回、地域の学校(三芳小学校・三芳中学校)で授業を受けています。同学年の子どもたちと毎年一緒に過ごすの、春琉ちゃんはすっかりクラスの一員。この制度のおかげで、春琉ちゃんは同級生とのつながりが途切れず、地域の一員として笑顔で暮らすことができます。

大好き！みよし野菜

「三芳町に住んでから、夫の晩酌のおつまみが野菜になりました」と笑う真紀さん。新鮮な野菜が手軽にいつでも手に入る環境に驚いたといいます。「いつも近くの直売所で野菜を買うんですよ。農家の人も顔を覚えてくれて、話しかけてくれたり。春琉も三芳の野菜が大好きなんです」。春琉ちゃんが特に好きなのがトウモロコシ。これからの季節、収穫したてを

三芳町で暮らす理由

春琉ちゃんにとって生活しやすい環境。そこで選ばれたのが三芳町でした。医ケア児にとってどのような環境で暮らすのかは重要な問題。決め手は何だったのでしょうか。

「家の中で春琉が動きやすいように改装ができて、訪問看護の車を停める駐車場も必要。同じ金銭負担で少しでも広い家に住むことができる地域を探していました。元から住んでいたふじみ野市と生活圏が大きく変わらないということで、三芳町に住むことに決めました」と真紀さんは振り返り、第2のふるさと「三芳町」について話します。

親身・距離感・温かさ

人口約3万8千人の小さな町。近所の人は温かく、距離感もちょうどいい。病院へ車で通うときや、救急車を呼んだときに大きな道路にすぐに出ることができるようアクセスの良さ。実際に住んでみて、さらに三芳町の魅力に気づいたといいます。「小さな町なので、町の職員、

↓食べるのを待ちきれないくらい野菜が好きな飯島兄妹。



茹でて食べるのが楽しみな夏野菜です。「ちなみに私は三芳のトマトが好きです。味が濃くて美味しんですよ」とすっかりみよし野菜の味方の虜になった真紀さん。「食べる」という毎日行う行為をみんなで噛みしめているからこそ、毎日笑顔が溢れる飯島家。その姿は、どこにもある幸せな家庭。お互いにサポートし合い、喜びを共有する。そんな「家族愛」に溢れた姿が、そこにはありました。